

顕彰状

釜本邦茂氏は、1944年4月15日に京都市右京区太秦で生まれた。京都市立太秦小学校でサッカーと出会い、市立蜂ヶ岡中学校3年生の時には主将として京阪神三都市大会に出場し、優勝を果たした。府立山城高校時代には、大学生以上を対象とした講習会に特別に参加を許され、デットマール・クラマー氏の指導を仰ぐ機会に恵まれ、この時の教えがサッカー人生の大きな道標となった。

1963年に早稲田大学第二商学部に入學した氏は、1年次からア式蹴球部のレギュラーを獲得すると、4年間で関東大学リーグにおいて優勝3回、自身も4年連続得点王に輝くなど、目覚ましい活躍を見せた。また、1963年度、1966年度の天皇杯全日本サッカー選手権大会でも見事優勝を果たし、早稲田の強さを世に示した。

本學在學中の1964年には、19歳で日本代表に初選出され、東京オリンピックに出場。アルゼンチン戦で川淵三郎氏の同点ゴールをアシストしたものの、日本はベスト8で敗退、氏も順位決定戦で1ゴールを挙げるにとどまった。その後、日本代表に定着した氏は、ストライカーとしての頭角を現していった。卒業後は、ヤンマーディーゼルに入社。後に強豪の一角を占めるに至る同チームの大躍進の原動力となった。

1968年のメキシコシティオリンピックではエースストライカーとして日本代表チームを牽引し、初戦ナイジェリア戦でハットトリック、第2戦ブラジル戦では貴重な同点ゴールをアシスト、銅メダルをかけた地元メキシコとの対戦でも得点を挙げるなど、全得点に絡む7得点2アシストの大活躍を見せて同大会の得点王に輝き、日本サッカー史上初のオリンピック銅メダル獲得に大きく貢献した。1978年からはヤンマーディーゼルサッカー部の選手兼任監督に就任し、就任3年目には初のリーグ制覇に導いた。その後、1991年に松下電器産業サッカー部の監督に就任し、引き続き1993年Jリーグ開幕時のガンバ大阪の監督を務めた。

日本サッカー協会においては、理事、副会長、協会顧問などの要職を歴任し、さらに2002年FIFAワールドカップ日本組織委員会理事、2002年強化推進本部長も務めるなど、日本サッカーの発展と強化に取り組んできた。加えて、少年サッカーの指導やユース年代の育成にも尽力し、氏が全国各地で主宰するサッカー教室では、今日までにのべ50万人を超える子供たちの指導にあたり、多くの逸材を輩出してきた。

氏は、日本代表として数々の大記録を残し、国際Aマッチ75得点は、男子歴代一位の偉大な記録として未だ破られていない。1984年8月25日、国立競技場に超満員の観客を集めて行われた引退試合には、ペレをはじめ、世界的な選手たちが駆けつけ、引退を惜しむとともににはなむけの言葉が贈られた。真のストライカーとしてたゆまぬ努力を続けてきた氏の、偉大なる功績をねぎらう気持ちの現れであったといえよう。また、2005年には第1回サッカー殿堂に当時最年少で掲額される栄誉が与えられた。

ここに早稲田大学は、日本サッカー界と早稲田大学に対する永年にわたる多大なる功績と献身に対して、釜本邦茂氏を早稲田大学スポーツ功労者として表彰し、その名誉を永く讃えるものである。

2019年4月2日

早稲田大学